



一歩 みんなのIPPO

令和2年10月19日(水)
四季が丘小学校 研究推進便り

9月18日(金)に、広島県西部教育事務所の中塩曜子主任指導主事、廿日市市教育委員会の金本旭史指導主事をお迎えし、学力フォローアップ校事業第3回授業研究会を行いました。

今回は、第5学年の国語科「物語のおもしろさを解説しよう」の研究授業をもとにつまずきの要因と手立ての工夫について再確認することができました。

中塩主任指導主事より、これまでの学習指導要領解説の変遷のポイントをわかりやすくお示しいただきました。また、教材の特徴を捉え、発達段階に応じて指導事項を見極めながら手立てを講じることが大切であると教えてくださいました。



小田 薫先生の授業からの学び ～授業改善に向けて取り組むこと～

(若手の先生より)

- ・叙述をもとに考えさせる活動があまりできていなかったため、自分の考えと共にどこの文章を見てそう思ったのかを言わせる活動を取り入れていきたい。
- ・単元で付けたい力を明確にし、それを達成するための言語活動を行っていきたいです。活動の中では、叙述をもとに読みを深めることや工夫された表現に気付いていけるような発問を考えたいです。また児童のつまずきを明確にし、そのための手立てを考えることが国語科で大切だと気づきました。思考ツールや語句の意味理解などその児童に合った取組を見つけたいです。

(中堅の先生より)

- ・児童がどのように輝いてできるかを念頭に正確なアセスメントを心がけ適切な手立てを考えていきたいです。
- ・子供たちが一生懸命、教科書のページをめくり「ここにこう書いてある!」と嬉しそうに文章を指さす姿が見られる授業をしたいです。



(ベテランの先生より)

- ・自分の想像で語るのではなく、叙述を根拠として読み深めることをもっと意識して子供たちに投げかけていきたい。
- ・国語の単元の前後にある手引きをもっと研究して、ゴールを明確にして計画をねりたい。
- ・大きな声で自信を持って語れるよう、今日、学ばせていただいた手立て等を取り入れる。

学力フォローアップ校事業連絡協議会の報告

9月17日（木）に、学力フォローアップ校事業連絡協議会がZOOMによりオンラインで実施され、立命館大学の宮口幸治教授の講演を拝聴しました。

以下は、研修終了後に提出したアンケートの一部です。



本校では、昨年度立ち上げた通級指導教室でコグトレを活用しています。「点つなぎ」等のプリントは目にしていましたが、どんな課題のある子どもがそれを活用しているのか、また何のためにするのか、どんな力が身に付くことをねらいとしているのかということまでは理解できていませんでした。宮口先生には、その部分をわかりやすく教えていただき、とても参考になりました。一斉指導や学級で適応できていない子どもが通級指導教室では生き生きと集中して課題に取り組むことができ、毎回の通級指導の時間をとても楽しみにしています。それは、宮口先生がおっしゃった「支援が必要な子どもに必要な支援がなされている」からだと痛感しました。

『困っている子どもの特徴』については、気になるあの子を思い浮かべながらお話を拝聴しました。「見つけるのは先生しかいない。いかに早く見つけて支援をするか。」宮口先生のお言葉は心に響きました。（中略）どの子どもも取りこぼすことのないように、学校全体で認知機能強化及び認知作業のトレーニングを行い、その子どもに必要な具体的な支援を講じていく必要があるように思いました。認知機能強化トレーニングは、宮口先生からのアドバイスにもあったように、まずは、「写す」と「数える」のトレーニングから始めたいと考えています。

認知作業トレーニングは、体育の授業で取り入れると楽しくできそうな内容もありました。どちらもゲーム感覚で楽しみながら行うこと、よいところを見つけて褒めること、子どもの心を傷つけないということを大切にしたいです。

これまでの取組の中で、つまずきにはさまざまな要因や背景があり、手立ても多岐にわたることに気づきました。特に低学年において宮口先生のお考えやそれに関連する手法も参考にしていけたらと考えています。

右の画像は、コグトレの書籍の表紙です。野村先生が持っておられます。他にもたくさんのコグトレに関する書籍を持っておられます。分かりやすく使い方やポイントを教えてくださいますので、チャレンジしてみてください。



学力フォローアップ校事業のまとめに向けて

今年度も折り返しを過ぎ、いよいよ指定校事業のまとめに向けての取組を進めていきます。対象児童の変容を見取るデータ（テスト、ノート、ワークシート、振り返り等）の保管を学年で声をかけ合いながら行ってください。どうぞよろしくお願ひします。

